

2009年度会員総会開催 地域に愛され、地域と共に歩む活動を

5月29日(金)、2009年度熊本YMCA会員総会が開催されました。会場の中央YMCAジェーンズホールには会員ら162名が集い、2008年度の活動を振り返るとともに、2009年度の運営方針などについて提案がありました。

総司会を野外教育部リーダーの一貫良太さんと健康教育部リーダーの森原彩さんの2人が担当。第一部礼拝では、日本ナザレン教団熊本キリスト教会牧師の中出牧夫さんに「共に生きる喜び」と題し、奨励をいただきました(詳細は下段)。

続く第2部では、リーダーとしてYMCAの活動を支えるユースボランティアを代表し、野外教育部インディアンズクラブリーダーの石松良介さんに委嘱状が渡されました。その後、10年、20年、30年、40年、50年にわたり、熊本YMCAの活動を支えていただいている会員の方々へ「会員永年在籍表彰」の感謝状と記念品が授与されました。また、八代ワイズメンズクラブへ20年奉仕感謝、熊本ワイズメンズクラブへ60年奉仕感謝の特別表彰が贈られました。



第3部は、2008年12月に施行された新しい公益法人制度について研修が行われ、熊本YMCAが公益財団法人への移行へ向け、準備を進めることが説明されました。

第4部総会は、常議員会議長の菅正康さん、副議長の佐藤典子さんによる進行で行われました。ミュージカルY!で活躍する中原幸恵さん・末原利江子さんのナレーションと映像によって、2008年度の活動を振り返りました。2008年度は熊本YMCAが創立60周年を迎え、記念式典をはじめとする各記念行事が開催されました。

また、AFF(アジア・フレンドシップ・フアンド)を目的に実施されたチャリティプログラムへの参加・協力に対し、総主事の堤弘雄さんから感謝の言葉が述べられました。

2009年度運営方針強調点(要約)

方針Ⅰ 地域YMCAの深化

1. 小委員会の活性化と公益性に配慮した使命に基づく活動の展開
2. 会員運動新中期3カ年計画の策定
3. 会員同士の関係を深める計画の立案

方針Ⅱ 人格の形成

1. キャラクター・ディベロップメントに基づく具体的な行動や取り組みの提案
2. “家族”と“こども”にフォーカスを当てた取り組みの実践
3. 精神(Spirit)・知性(Mind)・身体(Body)のバランスの取れた成長への願いを強調

方針Ⅲ 共に生きる平和な社会

1. 1YMCA1アジア構想の実行
2. タイ若竹寮留学生の支援
3. 平和・環境・健康(いのち)・多文化共生をテーマとした催しの開催

方針Ⅳ 全国のYMCA及び諸団体との協働と公益法人制度改革

1. 公益認定に向けた移行手続関係の基盤整備
2. 地域NGO・NPOとの協働による講演会やワークショップなど活動の展開
3. 長崎YMCAへの支援の継続と鹿児島YMCA設立に向けた応援

方針Ⅴ 若者と女性の参画

1. 各運営委員会にユースの運営委員を新たに1名以上選出
2. 新たなユース育成委員会を設置
3. ユースにリーダーシップ育成の機会を提供

方針Ⅵ 財政の安定化

1. 事業中期5カ年計画(2010年度～2014年度)の基本事項を検討するプロジェクトを設置
2. 事業部・地域YMCAごとに事業中期5カ年計画を策定
3. 事業部の2009年度の事業計画は事業中期5カ年計画の基本的構想を反映



さらに、決算報告や監査報告、2009年度事業計画案・予算案など各議案についても審議され、いずれも承認されました。そして最後に、YMCAの活動を担っていただく新常議員の選任が行われました(常議員の紹介は3面)。

奨励「共に生きる喜び」

熊本ナザレン教団
熊本キリスト教会牧師 中出 牧夫さん



「マタイによる福音書第25章40節
そこで、王は答える。『はつきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』」

マタイによる福音書第25章は、イエス様が天の御国について話された箇所です。この所を読みますと、天の御国、天国とは死んだ後に行く所ではなく、むしろ、「私たちは、今の時をどう生きるのかを問われながら、天の御国を目指して歩む旅人なのだ」という、今を生きている私たちの姿が描かれています。
それはまさに、熊本YMCAが掲げている使命に合致していると言えます。

「熊本YMCAは、熊本バンドの精神を受けつぎ、イエス・キリストによって示された愛と奉仕のわざに励み、青少年の精神・知性・身体の調和の取れた全人的成長を願い、すべての人がひとつとなるための働きを行います。」と。そのようにして迎えられる60周年の、2007年度から2009年度の3カ年計画の全体運営方針の中のひとつに「共に生きる平和な社会」という項目があり、そこには「海外で貧困やその他の理由により教育や医療を受けることのできない子どもたちへの支援やエイズ等の問題などに取り組みうとしていくアジア地域のYMCAとの交流を深め、共に生きる社会、平和な世界の実現に努める。」とあります。その方針に従って、活動が繰り広げられていることです。そして、今年2009年度はその締めくくりの年でもあります。

マザー・テレサがこう言いました。「親切で慎み深くありなさい。あなたに出会った人が誰でも、前よりもっと気持ちよく、明るくなつて帰れるようになさい。親切があなたの表情に、まなざしに、微笑みに、暖かく声を掛ける言葉に表れるように。子どもにも貧しい人にも苦しんでいる孤独な人すべてに、いつも喜びにあふれた笑顔向けなさい。世話するだけでなく、あなたの心を与えなさい。」と。マザー・テレサはその出会う人々に「共に生きる喜び」を与えました。「最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのです。」と言われたイエス・キリスト様のお言葉のように生きられたのです。そのように言われたイエス・キリスト様は、私のような小さな者のために十字架にかかり、命を捨ててくださったのです。このイエス・キリスト様によって示された愛と奉仕のわざに励むYMCAの働きが実は「共に生きる喜び」を世に問いかけている働きであると言えるのではないのでしょうか。感謝と共に、今後の働きに心から期待致します。